

【あいやこ】 第一回

二〇一二年四月号より先月号まで、「生活教育キーワード」を三年間連載してきました。

「生活教育キーワード」のもととの趣旨は、「生活教育」や「日生連」と人に言うときわかりにくいので、キーワードをあげて「生活教育」が自己紹介するイメージでした。代表的な実践例や本を紹介していく予定でした。

参考文献は紹介してきましたが、実践例は一つであつてもとても一ページにおさまらず、このやり方は無理でした。私にまとめる力がないだけでなく、生活教育の実践自体がいろいろな意味を持つ豊かな内容をもっているせいだと思います。

そこでショーウィンドウ型というか、この一ページで入口に店の中に入っていくたくなる問題提起をしようと考えました。つまり紹介したい生活教育の真髄や魅力そのものは、店の中においてなるべく書かないようにしてみました。

「なんでこのキーワードなのか」と少し調べてみた



り、「これはどの実践を想定しているのか」と考えたり、「なんでこの参考文献なのか、なぜこのページなのか」と本を開いて考えてみると、生活教育の「お店」の中に入ってしまった感じがします。その号のほかの論文や実践報告でも、このショーウィンドウページから入っていつて、試しにそれへのガイドやコメントのように読んでみるといろいろな意味が出てくる……といいなと思っていました。

いろいろ調べる中で、私自身かえって日生連や生活教育の発見につながり、紹介すると言うほどわかっていないことが多いなあとも思いました。奥深いです。

今月号より「生活教育eye」にタイトルを変えて、今起こっているいろいろなことを〈生活教育の目〉で見て行くにはどうするか、どう見えるかについて、問題提起しながら考えていきたいと思えます。

(研究部・加藤聡二)